ESSAY

LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。
氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text & photo: Eiichi Ito

#45
RIVA ラ・スペツィア造船所

RIVA最新動向

RIVAのイタリアに於ける生産体制は、艇のサイズにより2ヶ所の造船所で製造される。イタリア北部イゼーオ湖(Iseo)サルニコ(Sarnico)のRIVA本社造船所では27fから66fが、76fから165fはラ・スペツィア(La Spezia)造船所での生産である。それらの造船所での新艇は基本的には毎年フランスのコート・ダ・ジュールで開催されるカンヌ・ヨッティング・フェスティバルで発表される。

RIVAを含むフェレッティグループからウェイチャイグループに資本が移ってからは、毎年の様に新艇が発表されている。2016年以降にはスポーツフライ 76 Perseo、オープン 76 Bahamas、オープン 56 Rivale、スポーツフライ 66 Ribelle、昨年はオープン 48 Dolceriva、フライ 90 Argoが発表された。現在進行中のプロジェクトは 88 Folgoreであり、今年カンヌで発表するものと思われる。

カンヌ・ヨッティング・フェスティバル等において発表された艇の試乗をして最も印象深かった事は、内外装が古き良き時代のRIVAに回帰しているのでは……、という事だ。RIVAの特徴の一つであるハルカラーは、リーバ・クリームと紺色だったが、紺ハルが中型艇に再登場した。内装の木材も近年採用されてきたモノトーンに近いものから本来の木目の暖かみのある内装となった。66 Ribelleにはそんなテイストがヒシヒシと感じられるのだった。

昨年発表された48 Dolcerivaも同様な印象を持った。フェレッティグループのCEOであるガラッシ氏と共に48 Dolcerivaのテストライドの好機に恵まれた。ガラッシ氏からハンドルを渡され疾走した。スピードが上がるにつれ長いノーズが下がり視界が開ける。このサイズのRIVAオープンクルーザー独特の海面に張り付いているような感覚。時代の流れなのだろうか、最近から搭載されたVolvoエンジンとジョイスティックのコンビネーションであっという間に35ノットに達した。外観のフォルムもインテリアもまさに芸術品の域に達している事を再認識した。

大型艇を生産するラ・スペツィアのRIVA造船所では、生産されたばかりの110 Dolcevitaが下架されるのを待っている。紺碧に輝くリグーリア海と晴れ渡った空に、シルバーに輝く船体の対比がRIVAの美しさを際立たせていた。

ラ・スペツィアの隣街レーリチは洗練されたリゾートだ。ホテルから望むマリーナとレーリチ城が美しい。RIVA造船所はほぼフル生産状況。試乗した芸術品の様な優美な船体の48Dorcerivaで、フェレッティグループCEOのガラッシ氏は、35ノットで爆速中にサンベットに寝てみせた。そして彼は私に、「Mr.Itoもやってみないか……」と。僕にはそれをやってみる勇気はなかった。

RIVAとFERRARIとAgnelli

ミラノを訪れた時には時間を見つけてはフェレッティグループのオフィスを訪れ、フェレッティグループ・ホールディングスCEOであるXu Xinyu氏とグループやRIVAの動向を聞いたり、日本のマリン情報を提供したりと親しく交流している。ワイン好きでグルメな彼と食事をするのも楽しい。

フェレッティグループは2014年にエンジンやミッション等を生産する中国最大手のウェイチャイグループに株式を100%売却したのだが、その後フェレッティグループとフェッラーリとの関係は深まり、フェッラーリはフェッレッティ・ホールディングス株の14%を所有する事となった(86%はウェイチャイグループの所有である)。フェッラーリの大株主(23%所有)はフィアットの元名誉会長で亡きジャンニ・アニエッリ(Gianni Agnelli)が設立したアニエッリ家の資産会社エクソールである。アニエッリ家は世界第4位のファミリー企業にランクされ、その年商は18兆円にのぼると言う。因みに5位までにはポルシェ家とフォード家の自動車企業がランクされている。

ピエロ・フェラーリは父であるエンツォ・フェラーリ死後、フェッラーリの副会長として現在も精力的に会社の発展に寄与している。因みにアニエッリの娘婿のジョン・エルカーンがフェッラーリの会長であると共に、フィアット・クライスラー・オートモビル(FCO)とエクソールの会長も兼務している。何れにしろRIVAとフェッラーリとアニエッリ家は密接な相関関係にある。そしてフェレッティグループはフェッラーリの重要なスポンサーの一社である。昨年ヴェネツィアでRIVA50m(165f)が海と空からの盛大なセレモニーのもと華々しく進水した。オウナーはピエロ・フェラーリである。

RIVA ラ・スペツィア造船所訪問

ラ・スペツィア(La Spezia)はジェノバの南、ピサの北に位置するリグーリア海に面したイタリア海軍の重要な港であり軍需産業や造船所も多い。大きな湾の東側には錚々たる造船所が建ち並んでいる。RIVA、バリエット(Baglietto)、サン・ロレンツォ(Sanlorenzo)、フィンカンティエリ(Fincantieri)等、何もスーパーヨットやクルーズ船等を製造する名門造船所である。

ラ・スペツィアのすぐ手前の小さなリゾート地レーリチ(Lerici)に滞在し、翌日午前にRIVA造船所を訪問した。マネージャーの出迎えと共に造船所内を案内して貰った。6万平方メートルという広大な敷地の左右にボートヤードが整然と並んでいる。同時に20艇が生産可能なヤードは製造途中の艇でほぼ満杯状態だ。発注顧客はイタリア、アメリカ、ロシア、イギリス、スイス等とウォールドワイドである。先へ進むと300tのトラベルリフトが110 Dolcevitaを海面へ下架している。ポンツーンの総延長は400mあるとの事。多くのスーパーRIVAが係留され圧巻である。イタリアの、世界に向けてのスーパーヨット生産体制の底力をまざまざと見る思いがした。

Profile

伊藤英一

事業家。ボート歴は 10 代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVA と RIB の熱烈な愛好家。